

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000155		
法人名	有限会社エイプラスアール		
事業所名	カサブランカグループホーム魚住		
所在地	明石市魚住町中尾221-1		
自己評価作成日	平成28年10月2日	評価結果市町村受理日	平成28年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-casablanca.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	平成28年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の雰囲気作りを入居者と職員と一緒に作っている。壁画を作ったり、生け花を飾ったり、明るい雰囲気な中で、掃除洗濯等生活に必要な事は役割を決めて実践している。地域の傾聴ボランティアグループの方に週1回来て頂いています。定期的にシャンソン歌手、フラダンス、折り紙、お茶たてに来て頂いて、日々のレクリエーション以外にもお楽しみの日を設けて良い刺激になっています。食の楽しみも、毎週おやつ作りや、昼食作りを職員と一緒に作って美味しく召し上がっています。畑には季節の野菜を植えており、収穫のお手伝いをして下さり、収穫した野菜を調理して頂きます。避難訓練は地域の方の協力を頂き毎年行っています。アピールポイントは地域交流で、地域の方にも認知症の事を解って頂けるよう、推進委員会の呼びかけを継続致します

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・地域の関連団体参加による運営推進会議が従来以上の地域に特化した情報入手に繋がってきています。当該施設主体での一層の活動展開が期待されます。・施設内の畑で季節野菜を育て収穫された野菜はおやつや食材として活用、利用者も職員と一緒に調理され食事を楽しむための支援を積極的に推進し、それらの主な活動の写真をホームページに迅速に掲載しています。また、職員の対応や関わりが利用者一人ひとりの生活の質の向上に繋がり、その人らしい暮らしの実現のために日々の関係性をとても大切にしている。施設の雰囲気にもその温かさが感じられる。
【工夫点】・家族等の疑問点から契約時のQ&Aを集約し作成されました。家族等の不安軽減を図るため改善を行った点。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護サービスの特徴を毎日唱和しており、職員が確認できるようフロアに掲示している。管理者は朝の申し送りに参加し職員と入居者の生活が気持ちよくできるように意見し合い、共有して実践を行っている。	経営理念、運営方針、介護の特徴を玄関内眼に付きやすい場所及び居住フロアに掲示、日々唱和している。朝の申し送りに管理者が参加し、理念等に基づくサービスの共有化による実践の確認を推進している。	夜勤者への共有化工夫が望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が地域の住民である事で、自治会の方や民生委員の方と挨拶をかわす事が自然にできる初詣が季節のお花見は近所の神社に行き、神社の方と顔なじみになっている	本年6月運営推進会議に従来メンバーに加えて地域包括センター、社会福祉協議会、地域高齢者が参加により、うおずみ在宅主催のふれあいサロン実施の場所提供と地域への声掛け協力を行い、今後当施設主催への声掛けもあり、地域の一員としての認識が広がりとつある。	うおずみ在宅との共催から当施設主催への計画的推進による一層の地域のつきあいを深めた新たな地域交流への継続的推進が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の住民と交流できるように、推進委員会には認知症の人と一緒に暮らした経験のある家族様に参加して頂く機会を設け、体験談を話され認知症に対する理解を深める取り組みをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況、行事開催の報告を行う共に、避難訓練や夏祭りには実際参加して頂いており推進委員会議を行っている 会議では自治会長・副会長・民生委員・管理者・ケアマネが意見を出し合い評価頂きサービスの向上に努めている	前2項で記載の様に、報告だけではなく新たな参加者を加え、種々、意見、提案への拡がりへの可能性が出てきております。現活動に於ける評価に基づく意見、提案でもあり更なる質向上へのチャレンジが期待されます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	明石介護サービス事業者連絡会には必ず参加している 部会ではグループワークを行い他事業所の取り組みを聞く事ができ意見交換の場になっている。今後も出席し協力できるようにしていきたい	明石介護サービス事業者連絡会に必ず参加、部会のグループワークで他事業所の取り組みや意見交換の場としている。推進会議に地域包括センター等の連携も加わり地域の祭り参加へと自治体意向の連携実態に結びつきを深める段階にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止の為夜間ベット柵を手前2本させて頂く事があり、家族様の承諾を定期的に頂いている 玄関の施錠は職員人数が少ない時はさせて頂いている 自由で快適な生活が送れるよう、支援方法を工夫した介護ができるよう慎重に検討している	身体拘束の必要な場合は、家族に必要な性を十分に説明し承諾を得ている。職員が支援方法を工夫し慎重に進め、玄関の施錠等を行わないケアに取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	自宅に帰られる事は殆どないが、面会は多く円滑な家族付き合いができています。施設内でも虐待と観られるケアや発言は未然に防げるように良い方法を話し合い、快適な生活ができるようにしている	月1回のミーティングでは事業所内での対応について事例を基に話し合う。未然に防ぐように方法などを職員間で検討し共有している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネは研修で得た知識を共有している。入居者からの問い合わせがあり、不明な事柄は市町村に質問、相談をして助言をもらいながら支援を行っている	成年後見が必要なケースが現在はないが利用者や家族から相談があった場合は、市町村に相談し助言を得ている。個々の必要性を職員で話し合い今後は研修のテーマとして検討を進める意向。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明をおこなっており、疑問点の質問を受け説明を行っている。多い質問のQ&Aを作成しており解り易い説明ができる	契約は利用者や家族の立場にたち、将来のことを含め丁寧に対応している。料金や事業所のケアの考え方など含めわかり易いように説明している。前回の課題からQ&Aを作成され活用している。	Q&A活用の実効性を確認し、より良いQ&Aによる対応が期待されます。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域の自治会役員、入居者家族、施設側と話し合いの場(推進委員会)を設け、意見、要望のを受け良い施設になるよう。家族様には1ヶ月の様子を公表する為書面にして送付している	運営に関する利用者や家族等の意見の反映するために前向きに受けとめ改善に努める姿勢が感じられる。出された意見、要望は速やかに対応されている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者参加で毎月ミーティングを行っており、意見や提案を活発に出し合い、解答を得られる機会をもうけているので、職員は安心して働く事ができる	本部職員がミーティングに参加し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からは体制への意見等活発な話し合いの場となりモチベーションに繋がっている。	
		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働条件は努力や実績を把握し、労働時間の変更(パートから常勤)の声かけを行いやりがいを持って働ける環境が作れるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員のケアの力量を把握し、実践者研修を受けてもらい、認知症介護を深く学べる機会を設けている。施設内の実習が有る為働きながら向上して行け成果を上げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の在介のお誘いがあり、当施設にて包括・社協・在介・家族が集まって認知症介護が地域で行える環境について話し合う事ができた。ミーティングで公表し、サービスの質の向上に努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人が困っておられる事をよく知っておられる家族様やご本人から聞き取りを行い、入所後は安心して生活して頂けるよう努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設に来られる前の施設や病院に問い合わせ今までの生活環境を知り、要望に添った支援に努め、家族とは連絡を取り合いながら支援を行い良い関係作りに努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態を把握し、何が必要かを定め家族と話し合い福祉用具の手配を行い、安全に生活できるよう使えるサービスの提供をお知らせしている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者との会話、傾聴し馴染みの関係を作り、困った時に自然に介護者に言える環境作りを行っている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は施設での状況報告し、昔の本人の生活と照らし合わせてお話しする事で家族と施設側が共に支えて行くことができ本人と家族との絆を大切にすることができる		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人からの電話には直接お話して頂いたり、面会に来て頂いたり、近所のお店に出かけて懐かしいお話をしたり、景色を楽しんで頂ける機会が途切れないよう支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた地域とのふれあいをとても大切にしたい取り組みが展開されている。馴染みの和菓子屋さんとの交流など一人一人の生活習慣を尊重し継続的な交流支援ができるように働きかけている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を職員が把握し入居者の性質を理解し、偏らないように席を配置している 楽しい日々が過ごせるよう支え合えるよう努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの信頼関係を大切にして、入居者とその家族からの要望にいつでも応じるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者及びその家族よりご希望やご意向を傾聴して把握し、それに添うようなサービス提供をしている	日々のかかわりの中で声掛けし把握に努めている。言葉や表情などから真意を推し計り、それとなく確認をしている。管理者や職員が寄り添いどのように暮らすのが最良なのか検討している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のアセスメント情報より生活習慣を把握し、サービス提供に利用すると同時に状況をモニタリングに反映している		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者とその家族より直接に聴いたりサービス提供者より情報の提供を受けたりして現状の把握をしている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とその家族や介護関係者よりご希望やご要求を聞き、介護計画に反映して作成している	ご本人の想いや意見を聞き課題をケアに繋げている。家族には毎月の状況を報告し、意見をいただきながら進めている。管理者、職員共に現状をアセスメントし、介護計画に反映している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の変化や問題点などを個別に記録し、その情報を互いに共有しながらサービスの向上改善に活用している		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス提供計画を基に個別的に発生したニーズに的宜に対応している		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が望む瀬勝ができるように公的支援以外に地域的支援も重要です。その為に地域社会との交流を通じて支援している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が健康に心配する事なく、穏やかに過ごせるようにする為に訪問診療を取り入れ、入居者の健康管理をして頂いている	入居後も主治医の変更を進めたりはせず納得して適切な医療が受けられるようにしている。訪問診療も内科、歯科など取り入れ複数の医療機関と連携し充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のADL、介護の中に気付いた健康問題を看護職員に連絡し、情報を共有して適切な対応をして頂いている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入退院時、病院関係者と情報交換を行い、入退院時の対応を速やかに執り行っている	入院による変化への対応は大事であり、入院先との連携は密に図っている。退院時の医療情報の提供を依頼し速やかに対応できるよう関係づくりを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の病状の重度化やターミナルケアについて、詳しく本人とその家族に説明し、理解と同意を得るようにしている	入居者病状の重度化やターミナルケアについては、早い段階から本人・家族に説明、共有化し、同意を得、地域関係者と共に支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や転倒事故発生への対応について関係者は定期的に看護職員より応急処置の指導を受けている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者の参加で年1回避難訓練を行い、また消防署より指導を受けている	年1回自衛消防訓練申請に伴い利用者参加の避難実施し、コメントを受け、自衛消防訓練結果報告書を提出している(訓練状況をビデオ撮影されている)	自衛消防訓練結果報告書提出時、指摘コメント記載及びコメントに対する改善と改善後の実効性確認が望まれます。備蓄に関し、同社近隣事業所との連携による必要最低限の備蓄が望まれます。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人お一人を尊重し、個人に合わせた対応をしている。言葉使いや気持ちの良い態度で接するように心がけている。	援助が必要な場合であっても、まずは本人お気持ちに寄り添いさりげないケアを心がけている。人前であからさまな介護をしたり、本人を傷つけないように言葉かけや対応に配慮し徹底している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護サービスの提供において、介護計画を作成する際、複数の選択肢を提案し決定している。また、日常生活の中でも、ご本人の意思決定を大切に、その人の気持ちに添える支援をしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮し、希望を尊重したし支援に努めている。食事は衛生管理の問題上、食中毒等配慮した対応を行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みや季節に合わせた身だしなみや、おしゃれが出来、関心が保てるように働きかけている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	充実した献立により、食べる事に関心や楽しみが増えるように、盛り付け等に気を使っている。月2回の手作り料理やおやつ作りを一緒に行い、楽しさを増やしている。	月2回は献立作りや買い物から職員と共に取り組んでいる。畑で作った季節の食材をいかしたおやつも好評でこの時期はサツマイモを収穫し活用している。食事の盛り付けや片づけをされる利用者もいる。主な活動の写真を迅速にホームページに掲載している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリーや栄養バランスは確保できている。水分摂取量は1日の摂取量を記録に残し、体調や希望に合わせて調整している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後に口腔ケアを行っている。口腔ケアの難しい利用者には、職員が介助して行っている。地域の歯科医と連携し、必要に応じて往診の依頼をしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個人の排泄パターンを把握し、排泄の自立を支援している。一方で、排泄の失敗による羞恥心に配慮し、安心してもらえるように対応している。	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、その方の身体状況にあわせたケアを心がけている。個々の排泄パターンを記録し習慣を把握し自立に向けた対応や支援に繋げている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分摂取、筋力アップ体操、運動不足解消のため、毎日声かけし、自然排便が出来るよう取り組んでいる。必要に応じ、医師・看護師の指示により、服薬でコントロールも行っている。		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、一人ずつゆっくりと入浴出来るよう取り組んでいる。その日の体調や衛生面も考慮し、入浴の希望があれば、いつでも入浴していただけるように支援している。	入浴は週2回実施している。入浴のタイミングは個々に対応できるように希望を確認し時間帯を決めている。ゆっくり湯船につかり入浴を楽しめるように支援している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後しばらく臥床された後、その人に合わせた個別のレクリエーションも行っている。夜間眠れない方で希望すれば、医師の処方のもと眠剤も服薬していただいている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの服薬リストを作成し、どのような症状で服薬しているのか、リストを参照している。症状に変化が見られた時は、医師に相談し、指示を仰ぎ、その都度職員に周知徹底している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時の生活歴を把握し、ご本人の得意分野が発揮出来るように、一緒に制作物を作成したり、簡単な家事をお願いしている。天気の良い日は喫茶店などにも出かけている。		
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小人数での外出機会を設け、買い物や公園等に出かけたり、法事等での帰宅など個別に対応するようにしている。施設内でも、畑やお花に親しみながら、散歩をしている。	利用者6名ほどの小人数で普段は行くことのできない大型スーパーへの買い物に出かけ菓子やパンを購入したり近隣の散歩するなど本人の希望を把握し積極的に外出している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避のため、基本的に事務所でお預かりしている。ただし、買い物などの外出時は、必要分を持参され、支払いやおやつを受け取ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と日頃から連絡を取り合ったり、面会時お話しをさせていただいたりする中で、電話可能な時間帯なども話題にし、可能な限り希望に添えられるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは床暖房と加湿器にて、過ごしやすい温度調整をしている。毎月のカレンダーや季節の壁画は、入居者と職員と一緒に共同作品を作成し、壁に飾っている。	フロアの飾りつけや家具など使い易い配置であり壁画は季節感が感じられうまく活用している。利用者同士で過ごす時間が居心地よく過ごせうように整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にいくつもソファがあり、テレビ鑑賞・日光浴など一人または、少人数でくつろげる、自宅にいるような生活空間を設けて、ゆっくりと過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の生活上の動線が、移動しやすいように、タンス・ベッド等の配置を考え、本人の意見を尊重するようにしている。ベッドや寝具の貸し出しも出来るが、本人の好みの物も持ち込んでいただける。	居室は綺麗に整頓され本人が落ち着いて過ごすよう配慮されている。寝具やタンス、写真など思い出の品々が持ち込まれ本人の意向が尊重され安らぎを得られるような工夫をしている。お部屋の名札は職員と共に手作りしたポーセラーツを取り入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室・げた箱・テーブルに名札を付け、ご自分の場所を見つけやすい工夫をしている。一人一人の「出来ること」「わかること」を把握し、必要な介助が支援出来るよう、居室からフロアが見渡せる作りになっている。		